

パッケージ化した防災啓発活動 防災と福祉を融合した 「コミュニティ防災」のまちづくり



愛知県知多郡武豊町防災ボランティアの会
顧問 鈴木 重久

1 はじめに

私たちは、これまで見聞きした防災・減災知識を訓練に活かして災害に備えています。

地域（コミュニティ）防災を支えるには、個人防災力の向上と担い手の育成が必要です。

町の防災力を支える年代が高齢化し、防災への取組を継続向上させるには、個人防災力を活かし「担い手の育成」に役立つことで遣り甲斐を引き出す。これが活動継続の真髄です。「パッケージ化した防災啓発」にしたことで、会員の多くが支援に参加出来ます。

《学校の領域を認識しパッケージ化して、成長に沿って学習を柔軟に対応する》

学校に「パッケージ化した防災啓発活動」



地域自主防災組織訓練を見学

を受入れて頂くには、支援する姿勢が必要です。

防災学習は防災カリキュラム集から案を組み立て、学校の負担を極力最小化しています。

2 団体の概要

団体名は、武豊町防災ボランティアの会。設立は平成 21 年、現在の会員数は 86 名です。

愛知県や武豊町の防災リーダー・コーディネーター養成講座修了者の団体です。

現在は、町で防災リーダー・コーディネーター養成をしています。構成は啓発訓練部会、ウォッチング部会、家具固定部会、VC部会の4部会で活動、それぞれの部会が町全体の防災力の向上を目指して精力的に展開、福祉



パッケージ化した防災学習

＜小学校との取組み事例＞＊カリキュラム集から単元に合せてパッケージ化します。

テーマ組立

防災取組案

防災ボランティア提案

学習案の策定

協働の領域

内容調整

小学校・3年・4年・5年生

学習のねらいの検証
学校で授業日時の決定

カリキュラム集
選ばれた 20 の項目

- ①地震体験車震度体験 ②濃煙体験 ③地震 ④津波 ⑤豪雨 ⑥洪水
- ⑦気象（台風・雷） ⑧避難 ⑨非常品の備え ⑩防災学習パネル ⑪災害写真
- ⑫液状化実験 ⑬家具固定 ⑭耐震模型 ⑮地域の備え町歩き探検
- ⑯自主防災訓練見学と児童の訓練体験 ⑰応急手当・止血訓練
- ⑱応急担架搬送訓練 ⑲避難所体験 ⑳簡易トイレ

協働の領域は、内容と日時調整で授業を組立てパッケージ化するだけ

と防災を意識した横断的な取組を行っています。

3 背景

コミュニティ防災を目指すきっかけは、町の防災ガイドブック作成です。プロジェクトに参加した際、命を守る「防災教育」には、地域で思いやりを持って支え合い生活をして行く視点「福祉」を融合した「防災福祉教育」の大切さに気づき、遣り甲斐のある防災カリキュラム集を作るきっかけになったのです。町内全ての保育園・小中高校で、継続して行う「パッケージ化した防災啓発活動」は、町の「提案型協働事業」に応募して、「保育園・小中高校の防災支援事業を6年間・中学生防災リーダーの養成事業を3年間」その成果評価により、今年からは町の取組として継続する運びです。



小学生の防災学習



町の防災マン紙芝居



保育園児の地震体験

4 取組概要

これまで見聞きした防災知識をカリキュラム集として分類、気象知識や災害事例から、そのメカニズムや備え、写真などパネルにする資金は、町の提案型協働事業を活用、企業の協賛も得て活動しています。

保育園では、大画面紙芝居や防災マン体操でイメージできる取組みにして、小学校では、

地震のメカニズムや自然災害をパネルにして日常的に学習できるよう校内に常設、防災教室では実験と体験、考えて気づく防災啓発を大切にしています。中学校では、自分の命を守り周りの人を助けるには何が出来るか、避難所開設や実践訓練を継続しています。高校では、共助として必要な実践訓練を1年生が継続しています。会の活動者の多くが地域自主防災会組織の活動者でもあり、会員は常に自己啓発に励んでいます。



中学生防災リーダー養成講座の止血訓練



パッケージ化した中学1年の防災教室

5 成果

「パッケージ化した防災啓発活動」を体験している町内の子供達は、学校で学んだことを家庭や地域に持ち帰り、家族や地域の身近な人達へ防災と福祉の輪を広げてくれる存在に成りつつあります。なかでも、毎年継続している「中学生防災リーダーの養成」は、地域防災力向上に大きく貢献、子供達が、やがて地域を担ってくれる人材になることを願っています。